
梓と唯の一日デート

霧原 紫苑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梓と唯の一日デート

【Nコード】

N8123K

【作者名】

霧原 紫苑

【あらすじ】

中野梓と平沢唯の、何気ないお出かけを描いていきます。

食事に行ったり、ファッション店や音楽ショップに行ったりと、ほのぼのしい一日を過ごしていく二人。

プロット無し、更新は定期的なコンセプトに、ノリとテンションで変わっていくほのぼのストーリー！。

（前書き）

あらすじでも書きましたとおり、その場のノリとテンションで書いていくつもりです。

よって、話の道筋がしっかりしてない部分もでてきますが、そこはあしからず。

更新は定期的なをモットウに頑張ります。

梓と唯の一日デート

「…唯先輩、遅いです」

小さなため息とともに零れ落ちた一人言。

小柄な身体に黒髪ツインテールが特徴、桜高校二年に進級したばかりの、

軽音部次期部長の中野梓は暇を持て余していた。

木枯らしが去りつつも、まだ多少冷たい風が吹き抜ける四月の上旬。空は清々しいくらいの青で覆われ、雲ひとつ無い快晴である。

春休み真っ只中の学生達で賑わう午前中の駅前。

梓はとある人物と待ち合わせをしていた。

時刻は午前の十時を過ぎている。

時間厳守の梓を待ちぼうけさせているのは、同じ軽音部所属にしてギター兼ボーカルの平沢唯。

栗色の髪の毛にショートボブ、どこか不の抜けたところが印象的な梓の一つ先輩。

時間を守らないのはいつもの事として、自分から呼び出した時ぐらい厳守してほしいものだと思っていた。

今を去ること三時間前。

梓は一人、自宅で飼い猫の『あずさ二号』と戯れていた。

特別な用事も無いし、学校も部活も無い日曜日ぐらいはグダグダしよう！

そう心に誓おうとした刹那、梓の携帯が着信音とともにバイブしたのである。

急いでソファから飛び出し、手に持っていた猫じやらしを放り投げると、携帯のおいてあるテーブルに疾走した。

いくら電話であるといえど、相手を待たせてはいけない。

生真面目な梓は、発信者の名前が誰なのかも確認することなく電話に出た。

「はい、中野ですけど…」

「ぐっもーにん、あつずにゃ〜ん！」

「……なんだ、唯先輩ですか」

「むむっ。なんかあずにゃん、不機嫌じゃない？」

「いえ、なんでもありません」

電話の主が唯だと気づかされた瞬間、梓は今日の休日はこの人に振り回されると予感した。

「…で、どうしたんですか？ こんな朝早くに電話してくるなんて珍しいですね」

「だって今日は日曜日だよ？ 晴れ晴れだよ？ お出かけしたくなるでしょ」

……案の定だ。そう思いながらゆっくりとソファに腰を下ろす。

時計を見てもまだ午前の七時。何が何でも早すぎる。自分じゃなか

「つたらまだ寝てる時間だと、若干思考のずれている唯に呆れる梓。」

「私は忙しいんです。他を誘ってくださいよ」

「ええ、だってあずにゃんが良いんだもん。一緒がいいんだもん」

「……うっ」

頑として譲る気の無かった休日。

これからどんな言葉を掛けられても、決して揺らがないと決意した梓だったが、懇願する声に梓の決意はぐらついた。

人に必要とされることに敏感な梓にとって、唯の「一緒が良いんだもん」発言は卑怯なまでにクリティカルだったらしい。

……つまり。

「……し、仕方ないですね。今日だけですよ？」

即決してしまうということだ。

「ホント？ わーい、あずにゃん大好き。それじゃ十時に駅前集合ね」

用件だけを伝えるやいなや、唯は電話の回線を切った。

ツイッターと不在音だけが聞こえる携帯電話をそっとテーブルの上に戻し、再びソファに座りこむ。

近くにいたあずさ二号を座らせるように抱きかかえ、ちよんと自分のあごを乗せる。

時計に目を向けると七時を五分過ぎていた。

しかし、まだまだ待ち合わせの時間まで暇がある。

唯の無垢な性格からか、若干押し付けられた約束も心地よく思えた
梓であった。

【続く】

(後書き)

いかがでしたか？

次も頑張ります^w^b

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8123k/>

梓と唯の一日デート

2010年10月9日22時06分発行